

研究科報告の発刊にあたって

清山, 哲郎
九州大学大学院総合理工学研究科長

<https://doi.org/10.15017/17482>

出版情報 : 九州大学大学院総合理工学報告. 1 (1), pp.1-1, 1979-10-09. Interdisciplinary Graduate School of Engineering Sciences, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



研究科報告の発刊にあたって

総合理工学研究科長 清 山 哲 郎

本研究科は九州大学の「学際大学院構想」の具体的実現の第一歩として、本年4月に設置をみたものである。本学工学部は、昭和46年から総合理工学研究科を指向する、いわゆる独立専攻群の設置を推進したのであるが、漸く昭和50年に材料開発工学専攻の設置が実現し、その後、後続の専攻の設置が進められる間において、その計画は理工系の研究科を設置する全学的構想に発展移行し、4年を経てここに前記材料開発工学をはじめとするエネルギー変換工学、分子工学、情報システム学の4専攻から構成される独立研究科が九州大学の新部局として産ぶ声をあげるにいたったのである。ここにいたるまでの曲折、困難をかえりみると、喜ばしいの一語につぎるのであるが、これからいよいよ本番でスタートする訳で今後が大事であると覚悟の念を新たにしている。これまで、武谷、神田の前、現両学長ならびに西川工学部長をはじめ、関係部局の各位には総合理工学研究科の実現推進に絶大な御尽力をいただいた。ここに深甚な謝意を表するとともに、今後とも新研究科の充実発展のために御支援の程宜しく願います次第である。

さて、現在及び将来の人類社会が直面する諸々の問題に総合的な見地から取組むことは総合大学に課せられた使命の一つである。理工系の学問分野を学際的、総合的な観点からみたととき、物質、エネルギー、情報とこれらを取り巻くシステム化が大きな重要な課題として浮かび上がってくる。この観点から本研究科は工学部、理学部及び生産科学研究所の緊密かつ有機的な協力の下に“物質、エネルギー、情報”を三本柱とし、これらに関連するシステムの要素を盛り込んだ構成をもって発足したのであるが、近い将来さらに新しい専攻群を加えるとともに春日原新キャンパスに新営移転してより充実するよう計画を進めている。

ひるがえって、わが国の大学における研究と教育の将来を考えると、新研究科に課せられた責務は極めて重く、また期待される所も甚だ大であると云わねばならない。幸いに研究教育面で秀れた実績をあげてこられた練達の教官と将来の活躍が期待される新進気鋭の教官がこの研究科の旗の下に結集されつつあること、また意欲に燃えた俊英の大学院学生諸君が入、進学しつつあることには、甚だ意を強くするものがある。今後は、教育面で学際的な科学技術分野の研究開発能力を身につけ、社会の急激な変化発展にも対応できる人材を養成する一方、研究面では、既成の概念や分野に捉われない斬新かつユニークにして価値ある研究成果をあげることによって、ひとり九州大学のみならずわが国における特色あり、また誇りともなる研究科となるように前進して行きたいものである。教職員各位の御努力、御協力をお願いする所以である。

これから本研究科報告を定期的に刊行し、広く学の内外に送ることになったが、それが本研究科の着実でしかも栄光に満ちた発展をきざみこんだ里程碑となるであろうことを切に期待し、かつは念願して、発刊の言葉とする次第である。